

初等
小學

修身入門

木澤成恭編輯

一

271
3
33-

K110.1
182a
1

K110.1

182a

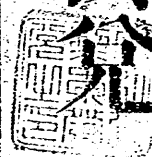
木澤成恭編輯

再版

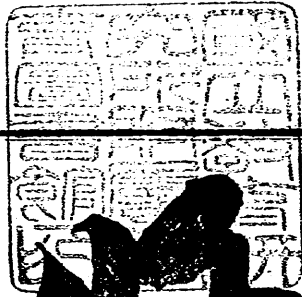
初等小學修身入門

版權免許

中外堂發兌



修身之道



五

作從之

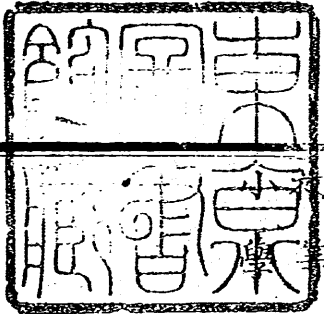


緒言

古人有言曰。習慣如自然也。今也童子自齟齬。入小學校。教之以修身之道。浹洽於胸臆。習慣於耳目。卒無有扞格之患。不知不識。至脩身之道。熟矣。此書始編次卑近而易解。簡短而易誦者。名曰修身入門。生徒漸進。教亦不得不從而

進是以中等及高等將漸次編纂高尚之格言以終焉。蓋生徒習熟之可自然得入德之門也。

編者識



修身入門目次

○卷一

學問

孝道

○卷二

悌道

立志

生業

修徳

○卷三

交際

愛國

敬身

初等
小學
修身入門目次終

初等
小學
修身入門卷の一

木澤成肅 編輯

學問

○學問は人の智とまは

○苦學ハ身ヲ榮花を生ズ

○勉強は、天稟の才より勝る、

○勤勉は、忍耐より成る、

○學問は、心と専らに志すべ

し、

○二兎を逐ば、一兎を得ば、

○人學ばざれば、道を知ら

ず

○學問の業は、師と尊禮す

るを、難しとす、

○學問は、好友小因て進む

○人の不學を見て、我身を顧みよ、

○前車は覆るは、後車の戒なり、

○善く學ぶものは、師逸し

て、功倍ま、

○至道ありと雖も、學ばざれば、其善きを知らぬ、

○玉琢かざれば、器をなさんと、人學ばざれば、道を知

らば、

○苦學を以て、樂とまれば、
立身心も従ふ、

○盛年過ぎ易し、時も及ん
で勉強さべし、歲月人と

またば、

○獨り學んで、友なければ、
孤陋よして、聞くこと寡
し、

○謂ふこと勿れ、今日學す

して來日ありと、

○學ぶべき時を、過れば、勞して功なし、

○人當より有用なる、學を爲さざれば、無用の學と爲す

づらば、

○無益の事のみを知りて、有益なる事を知らざる人ハ、是を無智の人といふ、

○學問或は、浮華うきに流れ、或は驕恣きょうに陷おとる、是玉たまを磨ときて、其質しつを損とふなり、

○讀書百遍すれば、義理自ら通ず、

○終日食をひば、終夜寢をぬば、以て思をつども、益えきなし、學ぶに、如ごとくざるなり、

○性愚ぐなりと雖、學習の功を積たまば、必かなち聰明の人と

なるべし、

○幼年の學問と、勉むるは、
農夫の種子と、地よ下す
が如し種と下さば、
豈收穫を望むを得んや、

○骨折りて爲したる學問
識見を、吾産業となる所
有の金藏なり、

○大禹は、聖人なるに、乃チ寸
陰を惜む、衆人よ至つて

を、當ふ分陰を惜むべし、
○初めふ苦めば、後ふ樂あり、
初めふ勤めざれば、後
の樂あることなし、

○毎日一字と學べば、一年
三百六十字なり、積で十
年ふ至れば、愚者變じて
智者となり、小人化して
君子となる、

○少年老ひやましく、業あり

難し、一寸の光陰、かろん
ずづあらば、

○讀書は、習熟すれば、記臆
するを得べし、義理は、細
思すれば、精しきに至る

べし、

○人一たび之を能すれば、
已之を百たびし、人十こ
び、之を能すれば、已之を
千たびし、

孝道

○善く父母に事ふるを孝となす

○人の行は、孝より大なるはなし

○夫れ孝は、百行の本、万善の源

○己の身は、父母の枝葉か
里、其根本と忘るべからず

○父母の恩は、山より高く、
海よりも深く、

○人と志て、孝なき者る、禽
獣と異ふらば、

○孝行る、富貴の資本、不孝

る貧賤の負債なり、

○罪不孝より、大なること
なし、

○不孝の子る、必ず身よ禍
を招く、

○父母は對しては、色を和
げ、氣を下し、愛敬を主と
まべし、

○身體髮膚を、父母は受く、
敢て毀ひ傷らざるは、孝

の始なり、

○身を立て、道を行ひ、名を
後世に揚て、父母を顯え
すは、孝の終りなり、

○父母之を愛まれば、喜ん

修身入門卷一
で忘れず、父母之を惡ま
バ、懼れて怨むる處とあ
し、

○父母疾あらば、帶と解ず
して、看護し、終夜傍と離

るべしあらば、

○祖父母は吾父母の父母
なれば、父母と同トく、愛
敬すべし、

○父母長上、教誡をるること

あらざ、首をたきて、謹と
之と聴くべし、妄に議論
をなすあらざ、

○父母の爲に、身と勞する
は、決して卑しき行にあら

らば、人よ美事と勸むる
の道なり、

○父母過ちあらば、氣と下
し、言を和げ、諫むべし、若
し、聴かざるも、其意に逆

ふとあうれ、

○父母卑賤にして已高貴
ふなるとも、父母の恩と
忘れず、益々父母を尊敬
して事ふべし、

○假令父母は父母たらば
とも子たる道と失はず、
能く愛敬せし、父母非
道なる行を以てするも、
之と恨み侮るは子たる

道よ阿らび

○孝子の親小事ふる、居るときは、其敬といたし、養ふときは、其樂みをつし、病ふは、其憂ひをいた

し、喪ふは、其哀みをいたし、祭るときは、其嚴をいたし、

○父母在すときは、遠く遊び、近きふ遊ぶ、必出方

角と告ぐべし、

○親は事ふる道多しと雖も、父母の心を安じ、氣を養ふと第一とひ、父母の身を敬ひ尊び、衣食を供

はらると第二とひ、

初等
小學
修身入門卷の一 終

K119.1

備註
凡開卷一

明治十四年九月十七日版權免許

同 年十月出版

同 十六年五月十五日再版御届

定價八錢

編輯人

東京府士族

木澤成肅

下谷區下谷西町十番地

出版人

同 平民

鈴木寛

麹町區三番町十番地

發兌人

同

柳川梅次郎

日本橋區本町三丁目十番地

初等
小學

修身入門

木澤成基編輯

二

277
2
21

K110.1
42
2